



白熱電球・蛍光灯合わせて117個を回収 84個のLED電球と交換

— 2月27日に城陽・青谷コミセンで —

「応援します！省エネ・脱炭素社会実現」を目指して取り組んでいる白熱電球とLED電球無料交換会、昨年に続いて第2回目の今回は青谷コミセン3階集会室を会場に2月27日（日）に開催。白熱灯99個・蛍光灯18個が寄せられ、40W・60W相当のLED電球84個と交換することができました。

地球温暖化防止は待ったなし！足元から脱炭素に取り組んでいただこうと、昨年文化パーク・市民プラザを会場に白熱電球とLED電球の交換会を開催しましたところ、100個のLED電球を白熱電球・蛍光灯あわせて150個以上と交換することができました。すでに多くの方々がLED電球をお使いだとの予想を覆すものでした。私たちはまだまだ、LED普及の余地は大きい、迷っている方が大勢おられるとの見方を強くしました。

家庭の白熱電球をLED電球に交換することで「約85%も消費電力を抑える」（広報「じょうよう」2020年7月1日号）ことができる省エネの“優等生”、それだけCO₂を削減して地球にやさしい、家計にもやさしい取り組みの第一歩をこの交換会から始めていただければと思っています。

青谷コミセンを会場に

今年の交換会も実施要領は変わりません。家庭にある白熱電球（電球型蛍光灯もOK）を1個以上お持ちいただき、40W又は60W相当のLED電球1個（26口金）と無料で交換（一人1個）すると言うもの。昨年は三密を避けるため2部制としましたが、多くの方がこられて、行列が出来てしまいました。今回は事前申込20人ずつ①～⑤のグループ制としました。これはなかなかハードルが高いのではと議論となり、チラシに料金受取人払のハガキを印刷して約2000戸の青谷地域に全戸配布（シルバー人材センター委託）することにしました。このハガキによる申し込みは56人、配布数に対して2.8%になりました。観音堂・長池地域には新聞折り込みでこのチラシを配布しましたところ2人、0.4%の方から申し込みをいただきました。その他メールやファックス、ハガキの持参など当日までに89人から申込があり、文パルでの100人100個とはなりませんでしたが、地域を限った取り組みとしては昨年に匹敵すると感じています。27日は仕事や家庭の事情でキャンセルされた方や当日受付の申込があり、84個の交換となりました。

1時半から①グループの交換を開始

今回の改善点はグループ制のほかに、10分ほどですがLED電球や地球温暖化についての話をを行い、その後に交換したことです。

27日の青谷コミセン、最初に会場に来られた方は1時頃、1時半には20名の方が参加され「LEDおすすめのわけ」の解説がはじまりました。



「LEDおすすめのわけ」の説明風景

最初に土居理事長が「コロナ禍で大変な折にご参加いただきありがとうございます。地球温暖化が進み一人一人が何をすべきか考えなければならない時期になって来ています。私たちのNPOは節電の呼びかけ、その中でも白熱電球をLED電球への取り換えが大きな効果があることからこの取り組みをおこなっています。今日をきっかけに家庭での省エネに取り組んでほしいです。」と挨拶。司会の杉浦副理事長が配布資料の説明をして、「LEDおすすめのわけ」のパワーポイントでの説明に移りました。(説明は古家野事務局長と杉浦副理事長が交互に行いました)

LED電球に替えると”大変お得”

最初にLEDは発光ダイオードと言われ、効率的に電気を光に替えるので少ない電力で、同じ明るさであれば白熱灯の8分の1の電力で良いので、電気代が安くなる、それだけではなく多くの電力を使わないのでCO2の排出も少なくなる、計算では100個の白熱電球をLED電球に替えると年間30万円の節約になる、LED電球1個に換算すると年間3000円の節約になるので大変お得。CO2の排出は5.6tも少なくなる。それは家計にやさしく地球にもやさしいと言うことで、その分発電しなくても良いので節電所・ネガワットと言われている。そのうえ寿命が長く40000時間、凡そ10年も長持ちする。白熱電球は1000～2000時間、半年から1年程度で電球が切れてしまうのに比べると取り替える手間が格段に違う、と言う便利さがある。

再エネ重視の新電力会社に切り替えも

温暖化対策で再生エネルギーを多く含む電力を使用するという方法もある、新電力会社の中には再エネ比率が高い電力会社、福知山のたんたんエナジーやTERAエナジー(この会社はお寺が主体、お坊さんたちが立ち上げた新電力会社)、京都府や京都市が進めているEE電気は福島でつくられている再生可能エネルギーを35%以上使っているなど電気会社を変えるだけで再生可能エネルギーの普及を応援することができる。他にも多くの会社がある、私たちのNPOのホームページでも紹介しているので見て欲しい。

今、世界も日本も、京都府も2050年カーボンゼロをめざしている。城陽市も昨年1月にゼロカーボンシティを宣言して温暖化対策を強化しようとしている。その時注意しないといけないことは石炭や石油など化石燃料を使わないことはもちろん、発電時CO2を出さないというたっている原子力発電、今の科学の力では放射能の被害をなくすことは出来ない、24日に始まったロシアのウクライナへの武力侵攻で事故を起こしたチェルノブイリ原発が攻撃・占領された。人類史上初めて原発が戦争に巻き込まれ、占領された。これまでの危険だけでなく戦闘行為・戦争の脅威が加わった。化石燃料や原子力ではない再生可能エネルギーによる発電をすすめてこそ未来の生存環境をまもることになる。



LED交換会スタッフ一同 浅井さん撮影

2022冬 市民発電・城陽 LED電球交換と省エネ学習

節・操・し・夢・す! 省エネ・脱炭素社会実現

白熱電球とLED電球の無料交換会

地球温暖化防止の呼びかけとして100元からの低価格で取り扱っているLED電球、2月27日(日)に開催される「白熱電球とLED電球の無料交換会」を開催いたします。多くの市民がLED電球とLED電球の交換会を開催していただくことで、約80%の省エネ効果が期待できます。LED電球の交換会を開催することで、約80%の省エネ効果が期待できます。LED電球の交換会を開催していただくことで、約80%の省エネ効果が期待できます。LED電球の交換会を開催していただくことで、約80%の省エネ効果が期待できます。

★日時 2月27日(日) 1時30分から 3時30分(雨天決行) 会場：(J) 及山地区公民館(徒歩5分)

★場所 青谷公民館 3F 集会室 (J) 及山地区公民館(徒歩5分)

★事前以下の作業をおこなってください。折返し、交換券(ハガキ)をお送りします。

申込及配布先と申込の宛先
NPO法人市民発電会 城陽市公民館
〒599-0121 城陽市中央台5-106
TEL: 071-58-1100
e-mail: info@citypower.jp

お名前・ご住所・電話番号を必ず記入ください。

※交換するLED電球は2014年まで、会場ではご用意したグループごとに交換券・ハガキの枚数(約10分)を把握してください。そのあと、交換会にご参加ください。

※参加料は無料です。ただし、LED電球の交換は、LED電球の交換会を開催していただくことで、約80%の省エネ効果が期待できます。LED電球の交換会を開催していただくことで、約80%の省エネ効果が期待できます。

受取人払ハガキ付のチラシ

- グループの時間帯
- ①グループ 1時30分～2時
 - ②グループ 2時～2時30分
 - ③グループ 2時30分～3時
 - ④グループ 3時～3時30分
 - ⑤グループ 3時30分～4時



回収された白熱電球 浅井さん撮影

ようなLED交換会を行っている。交換会は青谷コミセンが2回目、最初は昨年2月に文化パークを会場に行った。ほとんどの方がLEDに替えているのではと思っていたが、開場前から多くの方が見えて150を超える白熱電球等と交換することができたので今回の企画となった。太陽光発電は蓄電池とのセットの方法もあるので皆さんのなかで屋根にパネルを付けてみようと言う方がおられましたらご相談を、と呼びかけも行った。

117個の白熱球・蛍光灯を84個のLED電球と交換

LEDの解説の後、交換会場に参加者のみなさんを誘導60W・40WのLED電球との交換が行われました。パネルの写真をじっくり見て帰られる方や「私は環境問題に関心があり、ゴミなどもなるべく出さないようにしている」と話されている方、ソーラーパネルを付けたいと思っているが地震など災害にあうと

費用の回収が出来ないので心配しているなどの話が出されました。参加された方からは「LEDはいいなと思った」と言う感想や「LEDのことがよくわかった」などの感想が寄せられました。交換会終了後に交換個数を数えたところ99個の白熱電球・18個の蛍光灯を持ってこられ、84個のLED電球と交換できたことがわかりました。

取材に来られた温暖化防止センターの浅井さんは「熱心に聞いておられる方が目立ちました。話を聞きながらうなずいておられました。また、電球の交換だけでなく、LEDや節電・再エネについてお話をする時間を設けているシステムは良い試みだと思います。人の集まりも分散されるのでその点もよかったです」と話されていました。

*料金受取人払ハガキ付きチラシはマキノデンキ・市民活動支援センター・ぱれっとJOYO・青谷コミセン・梅工房・星和電機のみなさんにもご協力をいただきました。

*城陽市の後援を得て「広報じょうよう」2月1日号でお知らせをしていただきました。

まもなく11年目の3・11

東京電力福島原発の過酷事故を再び繰返さないために

岸田内閣の経済政策に期待が持てないと答えた人が55%などの2月19・20日行った世論調査の結果を朝日新聞(2/22付)が報道しています。その中で原発の運転再開に反対の人が47%と、反対を上まわるものの、初めて過半数を割ったことがわかりました。コロナ禍での毎日の生活の不安、日常的になりつつある地震や福岡ノ場など火山の噴火、異常気象に加えウクライナでの国際的な紛争状態などが福島の過酷事故の記憶を遠ざけているのかもしれませんが、また、一部には電力不足をあおる風潮や安全神話を復活させる動きがあることも見逃せません。

朝日新聞の全国世論調査

原発の運転再開	賛成 38% (32%)	反対 47% (53%)
		() 内は昨年2月の結果
汚染水の海洋放出	賛成 42% (44%)	反対 45% (43%)
		() 内は昨年5月の結果

10年余りを経過しても8万人以上の方々が故郷に替えることができないと言う事実から目を背け「避難者の実態すらリアルに把握しようとしていない」(2月6日原発問題住民連総会)と政府の姿勢が批判されています。廃炉作業もデブリ取り出し試験に使うロボットの開発などが遅れています。しかし、最終目標30～40年後の見直しはされないままです。今さえ良ければとの方針では、異常気象や頻発する地震・火山の噴火などの自然災害、多発している人為ミスなどに対応できず、再び過酷事故を起こしかねません。

3月11日を前にわたしたちは脱原発・温暖化防止・再エネ・省エネ推進の思いを新たにしていきましょう。

ロシア、ウクライナに侵攻 欧州最大級のザポリージャ原発を銃・砲撃

「人類史初」 原発へ暴挙 チェルノブイリ原発も攻撃・占領

ロシアが2月24日隣国のウクライナに侵攻、ミサイル攻撃や砲撃、空襲などで子どもを含む民間人に被害が及び、国外に逃れる人々は150万人超（3月6日現在）にもものぼっています。その中で、3月4日ウクライナ南東部にあるザポリージャ原子力発電所がロシア軍の砲撃を受け出火、施設が占拠される事態になっています。

ウクライナのゼレンスキー大統領は「ロシアを除けば、これまで原発を攻撃した国はない。国家テロリストが人類史上ではじめて核テロに訴えた」と非難しています。

ザポリージャ原子力発電所は1984年に1号機が稼働を始め計6基の原子炉があり、総出力は600万kW。同国の電力の2割をまかなっている欧州で最大級の発電所、と言われていています。周辺の放射線量に変化はないとの報道です。同国には15基の原子炉があり、他の原子力発電所も攻撃の対象となる脅威が現実のものとなっています。

各国は「無謀」と強く非難、国連総会緊急特別会合では「ロシア非難決議」が141カ国の賛成で採択され、原発攻撃に世界の批判が集まっています。岸田首相も福島第一原発事故を経験した国として「決して許されぬ」との考えを示しています。3・11を目前にして、岸田首相にはウクライナへの支援とともに福島原発事故の復興・救済にしっかり取り組み、脱原発への道を歩むことを願わずにおれません。



ザポリージャ原子力発電所 (Wikipedia より)

30年前に大事故を起こしたチェルノブイリ原発も攻撃・占領

現在稼働中ザポリージェ原発攻撃に先立つ2月25日に、あの過酷事故を引き起こしたチェルノブイリ原発をロシア軍が攻撃・占領したとの報道があります。人類史上初めて原発が戦争に巻き込まれ、占領されると言う危険な事態に陥っています。これまでの地震など自然災害による危険だけでなく戦闘行為・戦争の脅威が加わったと言えます。BBC電子版は「事故から30年たって、まだ処理が終わっていない。さらに50年かかってもおかしくない。あの施設で廃炉に向けてスタッフが処理作業を続けなければ、大問題になり得る」(2/25)と専門家の指摘を伝えています。

チェルノブイリ周辺では放射線量が大幅に上昇しています。これは主に大量の車の移動があった為に土ほこりが舞い上がった為と言われてはいますが、周辺での戦闘行為によって事故を起こした原子炉を覆っている「石棺」に銃砲弾が当たれば、それだけでなく脆弱になっているコンクリートに穴が空き、放射線が漏れることも十分考えられます。

戦闘行為をやめろ！戦争をやめよ！の声とともに原発への攻撃をやめよ・脱原発の声を大きくすることが今まで以上に大切になっています。



本会のQRコードです。スマホなどをかざすと本会ホームページを閲覧することが簡単にできます。お試しください。 NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会
連絡先 0774-55-4190 e-mail bnkmf858@kcn.jp